

教育子午線

Kyoiku-Shigosen

February, 2011

vol.25



◎研究レポート
渡邊隆信

◎キャンパス通信
◎うれしの交差点

新教育運動期における
学校空間の構成と
子どもの学習活動の
変化に関する
比較史的研究



◎教育最前線

教職大学院のこれまでの成果と
これからの可能性



教職大学院の これから

兵

庫教育大学教職大学院はこの3月で創設から3年が経過し、4コースすべてで修了生を出しますので、制度的には本年度で「完成」ということになりました。とはいえ、平成19(2007)年度から修士課程として全く同じコースと教育課程を始めましたので、実質的には4年の実績があります。この間、「理論と実践の融合」を意図した教育課程と授業が開発され、実習や共同研究を通じて学校現場、教育委員会との確固たる連携関係が構築されました。また授業評価やFDを恒常的に行って授業や実習の不断の改善も図ってきました。

すべてのコースから、新人教員とスクールリーダーとなる現職教員が現場に送り出されたわけですが、彼らは教職大学院の狙いである、学校づくりの有力な一員となり得ているのでしょうか、また学校や地域のリーダーたるにふさわしい高度な専門性と実践的指導力を修得することができたのでしょうか。こうしたアウトカムについてのステークホルダーからの評価は今後に待たなければなりません。が、本学教職大学院の教育活動と運営体制の特色や有用性は一定の認知を得られていると思います。

教職大学院は現在、中央教育審議会で審議されている教員養成改革の焦点であり、今後が重要です。中教審の昨年12月の審議経過報告では、当初の予想通り、教員養成の高度化をめざして、新人教員の養成期間を「学部4年十アルファ」に長期化すること、また現職教員用の専門免許状を創設することが提案されました。教職大学院は、

アルファの部分と専門免許状のための教育を担う中核とされており、教職大学院の位置付けや役割がより明確になることであり、歓迎すべきことですが、それを果たすためには、これまでの成果の検証と課題の解決に加えて、次のような一段のレベルアップが求められると思います。

4年十アルファとなった場合、アルファ期間に長期実習を実施することや、アルファの修了生の入職を確実にする必要があることから、アルファ部分を行う大学院への進学が事実上の新採教員の選考となる可能性があります。また、大学院における現職教員の学修をもとに専門免許状が付与されますので、教員の選考、採用と研修の責任機関である教育委員会との連携関係は、これまで以上に「深い」となる必要があります。養成される人材像や、教育課

程、教育方法について相互の「関与」と「合意」が必須であり、そのための連携システムと信頼関係の構築が求められます。

審議経過報告によれば、専門免許状取得のための学修は、教職大学院での学修が中心ではあるが、現職教員の学習機会を幅広く認めるべきであるとして、国・自治体の教育センターや民間の教育産業等が主催する研修講座も対象となっています。そうなること、教職大学院の教育活動の質とセンター等の間ではどう違うのか必然的に問われることになるでしょう。同じであれば、センター等の現場研修で十分ということになつてしまいます。改革の目的は教員養成の高度化ですので、あくまで大学院レベルの学修であるべきです。そのためには、教職大学院の根幹である「理論と実践の融合」に一層の磨きをかけなければなりません。その上で、「理論と実践の融合」に値するセンター等の講座を、教職大学院が専門免許状の単位として認定する仕組みを導入するべきです。

本学では今年4月から、文部科学省のプロジェクト経費を得て、学部と修士課程を含めて、4年十アルファと専門免許状のための教育課程と連携方法を開発・試行する実践的研究を始めることにしています。



↑附属小学校「うれしのカーニバル」



↑教育実践学フォーラム



↑大学祭「嬉望祭」

10月

- 1日 ◎創立記念日
- 1日・2日 ◎学部3年次学生合宿研修
- 2日 ◎大学院説明会(神戸、福岡)
◎附属小学校「うれしのカーニバル」
- 9日 ◎公開講座「教育環境の視点から再考する現代の子育てと教育」
- 10日 ◎附属幼稚園運動会
- 22日 ◎附属中学校研究発表会
- 30日 ◎教育実践学フォーラム
◎加東市との連携講座「科学者とは微妙にちがっていた!子どもたちの自然の捉え方ー野原の虫は遊んでいるだけだよ。だって、野原は遊ぶ場所だからー」

11月

- 2日・6日 ◎附属小学校「附小っ子コンサート」
- 3日 ◎附属幼稚園第2回幼年教育研究会
- 6日 ◎附属小学校創立30周年を祝う会
- 13日 ◎大学院学校教育研究科後期日程入学者選抜試験
◎附属中学校「友嬉祭」

17日~19日

◎附属小学校6年生修学旅行

20日・21日

◎大学祭「嬉望祭」

26日

◎加東市との連携講座「子育て支援講座」(第4回)

12月

10日

◎附属小学校マラソン大会

11日

◎附属幼稚園「ふよっこカーニバル」

12日

◎日本教職大学院協会シンポジウム

1月

8日

◎大学院説明会(神戸)

12日

◎附属小学校入学児童選考(面接)

15日

◎附属中学校入学生徒選考(学力調査、面接)

15日・16日

◎平成23年度大学入試センター試験

25日

◎学校教育学部推薦入学者選抜試験
◎附属中学校立志式

26日

◎附属幼稚園第3回幼年教育研究会

27日・28日

◎附属小学校研究発表会

Campus Topics

目次 Contents

16 14 12 11 10 09 08 06 04

- 16 兵庫教育大学からのお知らせ
- 14 KCVのスタジオに潜入!
大学の多彩な魅力を
番組を通して発信します
- 12 キャンパス通信
- 11 うれしの交差点
- 10 同窓生からの手紙
- 09 私たちの先生
浅川潔司教授(臨床・健康教育学系)
- 08 教育時事一問一答
教員の著書紹介
- 06 特別座談会
入学前の自分と現在の自分
教職大学院で得たもの
- 04 研究レポート
新教育運動期における学校空間の構成と
子どもの学習活動の変化に関する
渡邊隆信(基礎教育学系准教授)
- ◎表紙
教育最前線
教職大学院のこれまでの成果と
これからの可能性



「座像Ⅲ」

土本周平さん作(大学院修士課程芸術系コース2年)
2010年 100cm×110cm×195cm FRP
第42回日展第3科(彫刻)入選

兵庫教育大学では平成20(2008)年4月に教職大学院を設置し、今年3月、3年制の小学校教員養成特別コースが初めての修了生を出すことで完成年度を迎えます。そこで、いま一度、教職大学院の特徴と役割を確認し、今後の展望を探ります。

設立の経緯と目的

平成18(2006)年7月、教員養成のための専門職大学院として「教職大学院」制度を創設することが、中央教育審議会(中教審)の答申で示されました。兵庫教育大学では20(2008)年4月、教職大学院として学校教育研究科に「教育実践高度化専攻」を開設しました。現在、全国で25の教職大学院があります。中教審の答申では、教職大学院制度の創設に当たって五つの基本方針が提言されています。



こめ だ ゆ た か
米田 豊
教育実践高度化専攻長
社会言語教育学系教授

- ① 教職に求められる高度な専門性の育成への特化
 - ② 「理論と実践の融合」の実現
 - ③ 確かな「授業力」と豊かな「人間力」の育成
 - ④ 学校現場など養成された教員を受け入れる側(デマンド・サイド)との連携の重視
 - ⑤ 第三者評価等による不断の検証・改善システムの確立
- 兵庫教育大学ではこれらの基本方針を次のように反映させています。
- ①～③は教職大学院の共通基礎科目、専門科目、実習科目に組み込んでいきます。
 - ④は教職大学院研究・連携

これからの可能性
教職大学院のこれまでの成果と

進センターが中心となって、連携協力校での実習や教育委員会との共同研究などで教育現場の課題解決を支援しています。⑤については外部評価委員会や認証評価機関の評価を受けて改善に努めています。

キャリアに応じた人材養成

兵庫教育大学の教職大学院は「学校経営」「授業実践リーダー」「心の教育実践」「小学校教員養成特別」の4コースを置いています。

人材養成の特徴は、中教審の答申も踏まえて、教員それぞれのキャリア発達に即して「学校経営リーダー養成」「ミドルリーダー養成」「新人教員養成」の3ステージを構想していることにあります【表】。

現職教員の大学院生は自身の教育実践を振り返り、それに科学の光を当てた研究を通して、確かな指導理論と優れた実践力、応用力を備えた学校におけるリーダーとしての力量を身に付けます。一方、学部から直接入学したストレートマスターは新しい学校づくりの担い手をめざすうえでの基礎を固めます。

これらの人材養成を実現するため、共通基礎科目、専門科目の他に10単位以上の実習科目を設けています。現職教員の現任教や連携協力校（公立の小・中・高校や適応指導教室など）が抱えている教育課題と大学院生の教育研究課題とをマッチングさせながら、共同研究の形をとっています。教員に求められる高度な専門性の育成には、教育現場での実習が大きな位置を占めます。

今後の役割はさらに大きく

わが国の教員養成は、教員の大量退職・採用の時代を迎え、大きな転機に差し掛かるうとしています。文部科学省は新たな教員養成のシステムをここ10年ほどで完成させようとしています。例えば、学部の4年に大学院で1年ないし2年の教育を加えて人材を養成し、その後、学校現場で経験を積んでから教職大学院で1年間研修するということも検討されています。

兵庫教育大学の教職大学院が今後の教員養成に果たす役割もますます大きくなっていきます。

【表】教職大学院の人材養成について

| キャリア別の人材養成区分 | 対象コース | 養成する人材 |
|--------------|--|--|
| 学校経営リーダー養成 | ■ 学校経営コース | <ul style="list-style-type: none"> ● 将来の校長や副校長、教頭などの学校経営専門職 ● 学校経営を支援する管理主事などの教育行政専門職 |
| ミドルリーダー養成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 授業実践リーダーコース ■ 心の教育実践コース | <ul style="list-style-type: none"> ● 学校現場で指導的役割を果たすメンター教員 ● 学校の授業実践改革で中心的な役割を果たす教員 ● 学校で道徳教育や生徒指導などの「心の教育」を推進できる実践力のある教員 ● 「心の教育実践プログラム」の開発・実践指導に中心的役割を果たす教員 |
| 新人教員養成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 小学校教員養成特別コース ■ 授業実践リーダーコース ■ 心の教育実践コース | <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい学校づくりの担い手となる新人教員 |

特別
座談会

入学前の自分と 現在の自分 教職大学院で



兵庫教育大学の教職大学院が今年3月に完成年度という節目を迎えるに当たり、各コースの第一期修了生たちが学長室を訪問。教職大学院で何を学び、現在の職場でどう生かされているのかに

※① 小学校教員養成特別コースは今年3月に初めての修了生を出すので、前身に当たる修士課程の同コースの修了生に出席していただきました。

※② 一定の要件を満たす公立学校の教員が専修免許状を取得するために大学院に在籍している間(3年以内)、休業できる制度。休業期間中は給与を支給されませんが、教員の身分は保有されます。



やす だ とも こ
保田智子さん



大阪府岸和田市立山直中学校教諭
授業実践リーダーコース修了
平成6(1994)年に大学卒業後、大阪府内の公立中学校に勤務。20(2008)年入学。「特定の課題についての学修の成果」題目「生活習慣の確立を目指したカリキュラムの構築と授業実践—小学校・中学校、保健体育・家庭科の連携をとって—

い どう ゆき こ
伊藤幸子さん



山口県教育委員会学校教育課副参事
学校経営コース修了
昭和57(1982)年に大学卒業後、北九州市教員、山口県教員を経て、平成20(2008)年入学。「特定の課題についての学修の成果」題目「山口県山口市教育委員会教育行政改善プラン—「学校の自律性の確立」に向けた新たな動きをつくる—

Q 教職大学院を選んだ理由は

学校現場での長期にわたる実習が決め手でした(栗原)

加治佐 まず教職大学院に入学された目的を聞かせてください。

伊藤 山口県教育委員会では研修体系を整えています。自分自身の年齢や置かれている立場を考えると、最も当てはまるものが学校経営コースでした。

泉 今まで実践してきた生徒指導を見直し、今後、教員としてどう進むべきかを考えたいと思いました。

加治佐 保田さんは大学院修学休業制度を利用されたそうですね。

保田 大阪府は派遣をしていますが、制度を活用しました。中学校教員になって10年が経ち、若手にアドバイスしなければいけない立場になりましたが、自分には理論も知識も乏しいという意識がありました。働きながら新しいことを学んでいくのは難しいので、思い切って休職することにしました。

栗原 私は大学時代に中学校の教員免許状を取得しました。4年生の時に福岡県のスクールサポートターとして小学校で英語を教えたのが楽しかったので、小学校の教員免許状も取り、英語教育を深めたいと思いました。

加治佐 本学以外にも教員養成系の大学院に合格されたとか。

栗原 はい。そちらは修士課程で教育実習が短期間でした。働く前に現場をよく知っておきたかったので、3年次に1年間のインターンシップがある兵庫教育大学を選びました。

加治佐 長期間の実習を設けているのは、教職大学院の特長の一つですからね。では、印象に残っている授業や出来事はありますか。

伊藤 1年後期に「優れた教育行政事例の収集・分析」として、近隣の教育委員会でフィールドワークをしたことですね。その教委の取り組み

は、自分が思い描く理想の教育行政の在り方でした。教委の提唱していることが現場に浸透しているかどうかを確かめるため、市内の学校に向き、校長先生たちに伺うと、学校の方針と教委の考えはほぼ一致していたのです。以来、その教委の取り組みが目標になりました。

加治佐 フィールドワークは、かなり奥まで入り込みますから、学ぶべきことは多かったです。経験豊富な伊藤さんでも新たな発見があるのですから、教員の卵だった栗原さんは学外の実習で大きく認識が変わったのではないですか。

栗原 そうですね。2年後期の初めの実習までは小学校現場を知らないで、講義を聞いてもピンとこない部分もありました。でも、半年の実習を経験してからは、自分が見聞した先生たちの仕事ぶりや子どもたちの様子などが浮かんで、講義の理解度はぐっと深まりましたね。

加治佐 授業実践リーダーコースの保田さんは、専門である保健体育の指導で手応えをつかめましたか。

保田 コースの主目的からは外れませんが、私は中堅教員として幅広くスキルアップしたいという思いが強かったのですが、1年次に他コース生たちと一緒に受ける共通基礎科目が一番印象に残っています。校種も年齢も地域も違う方たちと知り合えて、すごく刺激を受けました。研究テーマも、いろいろな方たちに相談しながら固まっていきましたね。

加治佐 それは共通基礎科目の予期せぬ効果ですね。泉さんは大学院で知り合った仲間から影響を受けたことはありますか。

泉 今までは生徒指導で悩んでも相談する相手もおらず、経験からくる勘で動いていた部分がありました。

Q 教職大学院で印象に残っているのは

校種も年齢も地域も異なる仲間から刺激を受けました(保田)



くりはら み な
栗原美菜さん
加東市立社小学校教諭

小学校教員養成特別コース修了
平成19(2007)年に大学卒業後、入学。22(2010)年に修了し、加東市立社小学校に勤務。今年度は4年生を担当。学位論文題目「児童を英語に慣れ親しませる授業方略～担任教師による授業実践を手掛かりとして～」



いずみけん いちろう
泉健一郎さん
沖縄県浦添市立神森中学校教諭

心の教育実践コース修了
平成元(1989)年に大学を卒業し、4(1992)年から沖縄県内の公立中学校に勤務。主に生徒指導を担当してきた。20(2008)年入学。「特定の課題についての学修の成果」題目「心の教育総合プラン[同僚性]を基盤とした「協働的生徒指導体制」の構築～ミドルリーダーがつなぐ「元気のある学校」づくり～

得たもの

ついて、加治佐哲也学長
を交えて語り合いました。

Q 学んだことを現在の職場でどう生かしているか 自分が作成した「改善プラン」を実行しつつあります(伊藤)

大学院で同じ方法で問題解決してきた人たちと出会って、自分は間違っていたなかつたと分かりましたし、同じような人たちがいたことがすごく励みになりました。

加治佐 教職大学院で学んだことが、現在の職場で生かされていますか。

伊藤 2年次に8週間、インターンシップをしたのが、今年度から配属された山口市教委の学校教育課なのです。学校経営コースではインターンシップでの体験に基づき、その組織の「改善プラン」を修士論文の代わり提出しますが、今、周囲の理解と協力を得ながら、自分が作成したプランを実行に移そうとしている段階です。

加治佐 おそらく改善プランの実践を期待されている異動だと思いませんか。

伊藤 ただ、プランの大筋は間違っていないと確信できますが、8週間ではほんやりとしか見えていなかったこと、あるいは全く見えていなかったこともたくさんありました。大学院で作成したのはあくまでも写真であり、実行するために繰り返しの中で。

加治佐 確かに8週間では全ては見えませんが、大学院で学んだ理論が基盤にあるから、今、プランを練り直しているのではないのでしょうか。

伊藤 そうですね。だから大筋からは逸脱していないのだと思います。

加治佐 泉さんは生徒指導一筋にこられましたか、教職大学院で、心の教育として、道徳教育や進路指導など幅広く学ばれていかがですか。

泉 正直、道徳教育なんて自分の範疇ではないと思っていました。でも、学校ではやりたくない仕事も回ってくるわけで(笑)。実際、今年度は学級担任をすることになり、教職大学院で学んだことは道徳教育や特別活動などで大いに役立っています。

保田 私は入学前と同じ中学校に戻りましたが、自分の中で気持ちの持ちようが変わりました。今まで感覚でやっていたものが、大学院の2年間で理論として身に付いたと実感します。若手教員にもアドバイスしながら、「一緒に頑張っていきましょう」と言えるようになりましたね。

加治佐 教員1年目の栗原さんは入学前と比較するものがありますが、

栗原 悩んだり、失敗したりした時は実習を思い出します。あの時のメンターの先生はこういう対処をしていたなど、心のよりどころになっています。また、現場での専門用語も長期間の実習で覚えたので、校内の資料や会議でも内容が把握できます。

加治佐 なるほど。そのあたりは学部卒との大きな違いですね。最後に、修了生の皆さんが今後の教職大学院に期待することや求めることはありますか。

保田 私と同年代の教員には、大学院に入りたいという人が多くいます。現場を10年ほど経験したからこそ、学びたい意欲が湧いてくるのだと思います。ただ、全国的に大学院への派遣は縮小傾向ですし、生活を考えると休職にも踏み切れません。学びたいけど学べない人たちの意欲に、何らかのかたちで応えられる制度がつけられないものかと考えますね。

泉 教育委員会も派遣するのが難しいのであれば、月1回程度の単発の研修をやめて、教職大学院と連携して夏休みに集中形式でできないのでしょうか。その方が、従来よりも身の濃いものになると思います。



加治佐 そのような研修の方が絶対に効果的です。現在、中教審で現職教員用の専門免許状の創設について話し合われています。例えば、学校経営や特別支援、進路指導などの免許状です。創設されれば、講習は教職大学院で、泉さんの言われるような形式で実施されるでしょう。

栗原 自分が現場に出た分かったのはメンターの先生の負担の大きさですね。仕事がたくさんあるのにもかかわらず、私の指導に当たってくれていたのかと思うと、立派な教員に成長しなければと気が引き締まります。

加治佐 教職大学院の授業には、教育委員会にも学校現場にも多大なる協力を頂いています。在学生と修了生の皆さんにはそのことを気に留めておいてほしいですね。今日はどうもありがとうございました。今後のご活躍を祈るとともに、本学へのご支援をお願いいたします。

Q 教職大学院への期待や要望は 夏休みにスキルアップの集中講義をすれば効果的では(泉)

このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金を受けた研究を紹介し
ます。科学研究費補助金とは、すべての分野の「学術研究」を格段に発展さ
せることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤
研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は1人また
は複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3~5年です。

研究 レポート



わた なべ たかのぶ
渡邊隆信
基礎教育学系准教授

Report of Research

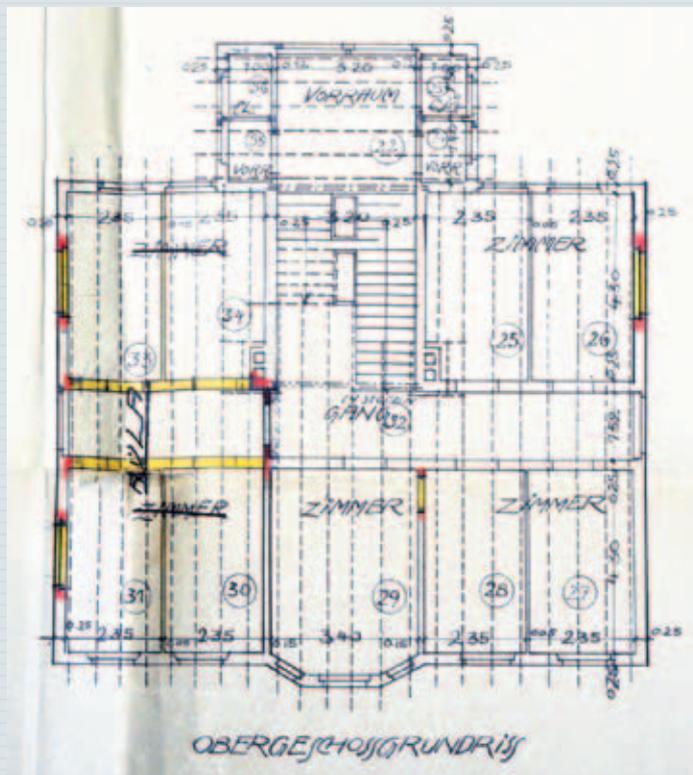
新教育運動期における学校空間の構成と子どもの学習活動の変化に関する比較的研究

(平成20~22年度科学研究費補助金・基盤研究に採択)

画

一的で閉鎖的な学校空間を改
革しようとする試みは、19
世紀末から20世紀初頭にかけて国際
的に展開した「新教育運動」に一つ
の歴史的起源を求めることができま
す。この共同研究では、新教育の諸
学校において校舎、教室、校庭など
がどのように変革されたのか、また、
その空間構成上の変革がどのような
教育理念に支えられながら新しい学

習活動を可能にしていたのかを米国、
英国、ドイツの具体的な事例に即し
て解明することをめざしました。
私が担当したのはドイツのオーデ
ンヴァルト校です。1910年に創
設された私立の寄宿制中等学校です。
実際に同校を訪問して、建築図面や
写真、学校雑誌などを収集・分析し
た結果、新しい学習活動に対応した
新しい学校空間が準備されていたこ



↑オーデンヴァルト校のシラーハウス2階の建築図面。当初、30、31、33、34は居室(ZIMMER)として設計されたが、校長らとの話し合い後、壁を取り払って講堂(AULA)に変更することが指示されている(同校所蔵)



↑左奥からヘルダーハウス、フィヒテハウス、渡り廊下を挟んでシラーハウス。各ハウスには教室とともに生徒や教員の居室が入っていた(同校所蔵)

とが明らかになりました。
同校ではコース組織という独自の
授業形態を開発、実施しており、生
徒は午前に約2時間の教科のコース
を二つ、午後は約2時間の実際の作
業のコース(園芸、機械工など)を一
つ選択し、各コースを4週間継続し
て学びました。それぞれのコースに
応じて教科教室、特別教室、作業室
が設けられ、教室の机といすは可動
式で学習内容と方法に応じて柔軟に
配置が決められました。教科の学習
は一教室に固定されているわけでは
なく、学習内容に応じて、図書室や
テラス、屋外でも実施されました。
また、学校運営にとって中核的な役
割を果たす「学校共同体(一種の全校

集会)のために、学校共同体室(講
堂)という特別室も設けられました。
こうした空間構成の工夫が生徒の自
主的で協同的な学習と生活を背後か
ら支えていたのです。
今回の研究を通してあらためて実
感したのは、学校空間が学習活動に
与える影響の大きさです。現在、日
本の子どもには知識の「習得」だけ
なく、習得した知識を「活用」したり、
自分たちで知識を「探究」したりする
ことが求められています。では、今
の校舎や教室はどのような学習に適
したものでしょうか。
残念ながら、日本の学校ははまだ
地域や学校種を問わず、画一的で閉
鎖的な校舎や教室が支配的です。し
かし、教科や単元に合わせて座席配
置を変えたり、調べ学習や成果発表
のために空き教室を使ったりと、教
員の工夫次第でできることも数多く
あります。また、校舎を新築する機
会に恵まれた場合には、めざすべき
学習活動をしっかり議論したうえ
で、それに適した空間構成を考える
必要があるといえるでしょう。



くろ いわまさる
黒岩督
基礎教育学系准教授

教育時事 一問一答

同じ「力」がつく言葉でも、「体力」「学力」などに比べると、「授業力」は少し分かりにくいかもしれません。一般的には、授業をしていくうえで必要とされる資質や能力を指します。教員の日々の教育実践の中でも、授業は大きな割合を占めています。子どもの学習を活性化し、認識を深め広げていくうえで、授業は重要な役割を担っています。子どもたちが授業を通して発達していくために、教員に求められる資質や能力が授業力です。

具体的には、例えば東京都公立学校の「授業力」向上に関する検討委員会(平成16年)では、授業力を「教員の資質・能力のうち特に実際の授業の場面において具体的

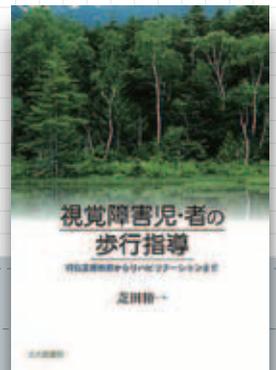
「教員の質の保証」に関連した記事によく出てくる「授業力」という言葉。具体的にどのような力なのでしょう。

に発揮されるもの」と捉え、次の6つの構成要素を挙げています。①使命感、熱意、感性②児童・生徒理解③統率力④指導技術(授業展開)⑤教材解釈、教材開発⑥「指導と評価の計画」の作成・改善です。

①～③は「資質」、④～⑥は「能力」といえそうですが、これらが互いに密接に絡み合い一体化した「資質能力」こそが授業力です。学習に向かう学級風土をつくる、同僚教員や保護者との関係を築くことなども含めて、授業実践の基盤づくりに求められるのも、教える内容や方法についての専門的な知識や技能にとどまらない、このような授業力であるといえます。

Question & Answer

視覚障害児・者の歩行指導(歩行訓練)は、1940年代に米国で考案・開発されたものが基盤となっていますが、米国とわが国では、歩行環境、障害者に対する制度や社会の理解などに大きな相違点があり、わが国に適應するためには大規模な変更が必要でした。本書は、筆者の30余年にわたる研究成果をまとめたもので、わが国に応じた歩行指導を総論・各論的に論述しています。基本的概念として、歩行の条件、基礎的能力、歩行能力など、より詳細に視覚障害児・者の歩行を分析し、指導内容では、わが国用に考案・開発された独自の歩行技術を多く含んでいます。



視覚障害児・者の歩行指導 特別支援教育からリハビリテーションまで

著:芝田裕一(臨床・健康教育学系教授) 北大路書房・平成22(2010)年刊

教員の 著書紹介



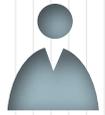
本書は、学習指導要領の改訂に基づき、主に中学校美術科の新人教員を対象とした題材開発のためのガイドブックとして編集したものです。「新しい中学校美術授業のめざすもの」「中学校美術科の授業構想と年間指導計画」「中学校美術科の題材&授業の実際」の3章から成り、美術科で求める資質や能力を育むための題材設定と、授業実践のプロセスを明示したことが特徴です。中学校美術科の諸課題を踏まえて、一人一人の発想や表現力が生かせる題材や、共同で制作する創造活動から楽しさや達成感を味わえるテーマを厳選し、授業実践のプロセスを詳述しています。

新中学校美術科題材案&授業展開の工夫

明治図書・平成22(2010)年刊 編著:福本謹一(理事・副学長)

Books

私たちの先生



あさかわきよし
浅川潔司 教授
臨床・健康教育学系

神戸市出身。昭和55(1980)年、広島大学大学院博士課程(後期)単位取得退学。翌年、兵庫教育大学の助手に就く。平成9(1997)年から現職。大学院時代に認知の発達心理学に傾倒し、現在も同分野の研究をライフワークとしている。最近は不登校児童・生徒の回復支援と発達障害のポジティブ・フォーカシングにも関心がある。

一人一人に合った的確な指導でゼミ生たちに人気です

「ヒーが大好きな浅川潔司先生は、いつもスターバックスのカップを片手に笑顔で私たちを迎えてくれます。」

ゼミ生は学部生と大学院生、留学生も含めて総勢14人と、学内で屈指の人数です。浅川先生は専門分野の

方から貴重な話を聞けるチャンスをいただき、浅川先生の信頼の厚さを実感しました。

活動の場は国内だけでなく、ハワイの学会「Hawaii International Conference on Education」に、私を含

発達心理学に限らず、ゼミ生一人一人に合った指導をしてくださいます。さまざまな角度からアドバイスを送り、貴重な話をしている姿が、多くのゼミ生を集める理由の一つだと思います。浅川先生の人脈はとても広く、私は以前、卒論のための研究で、先生と一緒に広島県の小学校や中学校を訪問しました。広島県まで行って研究ができるなんて思いもよらず、現地の先生

め3人の学生が同行し、発表する機会をいただきました。これも浅川先生のご指導あつてのことなので本当に感謝しています。ゼミでは分析方法や卒論に関する内容が中心ながら、時折、将来のことについても熱く話されます。教員採用試験に向けたアドバイスもしてくださるので、ゼミ生に限らず学校心理系コースや他コースの学生もとても助かっているのではないのでしょうか。



↑ゼミの論文発表会。一人一人の内容について、確かなアドバイスをされます



←授業の空き時間に個別指導していただくことも



みとべゆうか
水戸部悠夏さん
学校教育学部
学校心理系コース3年

Our favorite Professor

先生から
学生たちへ

昭和56(1981)年4月に兵教大に赴任してから30年になるうとしています。大学院、学部ともに1期生から知っていますが、学生諸君に対して抱く私の希望や期待には変わりはありません。それは「自律的な学生たれ」ということです。

自律的とは、他者と協調しながら、自己を自身が支配するということです。長いものには巻かれろ、といった生き方とは趣を異にします。毎年、自律的な学生に恵まれて今日までゼミを維持できたのは、幸いでした。かつてのゼミ生が今や立派な教員として活躍しているのを見ると、人に備わる自律性の偉大さをあらためて認識する次第です。今年のゼミ生たちも頭脳明晰で自律の人ばかりです。今後どのように大きく羽ばたくのかと楽しみにしています。



同窓生からの 手紙

「率先垂範」の姿勢で 学級経営に取り組んでいます

教員になって3年目、いろいろな面で落ち着いて子どもたちと向き合えるようになってきました。今、この仕事を選んで良かったと胸を張って言えます。私がかげにし続けている言葉が「率先垂範」。「先頭に立って模範を示すこと」という意味です。毎日、担任する2年1組の38人の生徒たちに対し、率先垂範を常に心掛けながら学級経営に取り組んでいます。例えば、清掃にしっかり取り組ませたいなら、まず自分が清掃を始めます。授業を理解してほしいければ、丁寧な授業計画を立て、発問についてもしっかり準備しておきます。私が行動で示すことで、生徒は「先生よりも頑張らないといけない」「先生の授業は分かりやすい」と言ってくれます。この言葉は本当にうれしいものです。

子どもたちは、大人の行動、言動をよく見えています。これから率先垂範の姿勢でさまざまなことを伝えていきたいです。現在のクラスで過ごす日はあとわずかとなりましたが、子どもたちと共に切磋琢磨していきたいと思えます。



た じか やす ふみ
多鹿泰史さん

西宮市立西宮浜中学校教諭

小野市出身。平成20(2008)年3月、学校教育学部自然系(数学)コースを卒業し、西宮市立西宮浜中学校に着任する。今年度は2年生を担当。学級目標に「VICTORY」を掲げ、行事や生活すべてにおいて1番をめざしている。卓球部顧問としても活躍中。

↓日頃から「生徒と共に学び合える授業」を意識しています



いま めぐみ
今津恵さん

加古川市立平岡小学校教諭

加古川市出身。昭和62(1987)年、学校教育学部学校教育専修を卒業。平成18(2006)年に大学院修士課程特別支援教育コーディネーターコースに入学。現在は加古川市立平岡小学校で通級指導教室を担当し、発達障害児への指導に当たっている。

↓個別学習では子どもの興味を引く教材を使って基礎的な学力を育てています



Letters From OB & OG

大学院での経験も生かしなが より効果的な特別支援教育を

小学校教員になって20年目を迎えた年、大学院に開設されたばかりの特別支援教育コーディネーターコースに入学しました。ちょうど特殊教育から特別支援教育への転換期で、通常学級の担任として発達障害のある教え子への支援に思い悩んでいた時でした。

大学院では、特別支援教育の基本理念や最前線の取り組み、障害特性やアセスメント法、指導法などを基礎から学びました。協力校での実習は、講義や演習で学んだことを実践で身に付ける良い機会となりました。そして、恩師や全国各地から集まった同級生との出会いは、何ものにも代え難い宝物であり、現場復帰後も大きな支えになっています。

現在は通級指導教室を担当し、加古川市内の通常学級に在籍する発達障害児への指導や支援を行っています。また、特別支援教育コーディネーターとして、保護者や担任教員、専門機関と連携しながら、支援体制の充実を図り、特別支援教育を推進しています。これからも大学院での学びと学級担任で培った経験を生かして、担任教員や保護者を支え、一人一人の子どもの特性に合った効果的な支援を実践していきたいです。

▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

第31回大学院同窓会総会岐阜大会の開催

大学院同窓会総会は毎年、都道府県持ち回りとしており、今回は岐阜県で開催します。詳細については、5月ごろ、全会員に送付する案内文書が「Hyokyo-net」をご覧ください。

◎開催日 8月20日④・21日⑤

◎会場 鶏匠の家すぎ山(岐阜市)

◎内容 修了生の教育実践研究活動等に係る表彰、教育実践の発表、講演「岐阜の伝統文化」／杉山雅彦さん(宮内庁式部職鶏匠)、鶏飼観覧、織田信長公居館跡や岐阜城の見学

▶手話による伝言ゲームで楽しみながら手話を学びます
 ▼大きな身振り手振りでできるだけ分かりやすく伝えます



◀声を出して話すのは厳禁。
 受講者は名札を首に掛けます



たか まじゅん じ
高間淳司さん
 大学院修士課程
 心身障害コース2年

昭和57(1982)年大阪府生まれ。1歳半の時に病気により失聴。米国にある聴覚障害者のための大学、ギャローデット大学を卒業後、平成21(2009)年に入学。代表を務める「Ya.Su.Wa.Ro.」の活動が学内の課外研究プロジェクトに採択され、手話講座や、ろう者による講演会などの開催に奔走している。

スポット
 ライト

手話講座の内容に試行錯誤 受講者の学ぶ意欲がうれしいです

大 大学院修士課程心身障害コースの学生が中心となって昨年6月に発足した「Ya.Su.Wa.Ro.」は、学内の課外研究プロジェクトに採択されたことで、昨年10月から5カ月にわたって手話講座や、ろう者による講演会などを開いています。

代表の高間淳司さんはプロジェクトへの応募に際し、計画書をまとめました。「手話を広める」障害者理解、大学と地域のつながり、活動の三本柱。手話講座は学内向け、講演会は地域の方にも参加を呼び掛けています」

社や、手話のシユワ、聾の口ウをつないだのがグループ名の由来。メンバー9人のうち、高間さんを含む3人が聴覚障害者です。1歳半の時に病気で聴覚を失った高間さんは米国ギャローデット大学を卒業後、平成21(2009)年にろう学校の教員を志して心身障害コースに入學しました。

「1年生のころから手話を覚えた」という学生の声をよく聞いていま

した。友人とどうすればいいだろうと話し合っていたところ、プロジェクトを知りました」

手話講座は全7回のコースで、学部生や大学院生ら25人が受講。高間さんは聴覚障害者のメンバーと交代でメインの講師を務めています。前半は日常会話のレッスンに充て、後半は手話を使ったゲームやフリートークを楽しみます。「この内容で聴覚障害者に対する理解が深まるのだろうか、いつも悩みます。だから、受講者の皆さんの熱心な姿を見るとうれしいですし、ホッとしますね」

念願かなって今春から大阪市のある学校に勤務することが決まりましたが、気がかりなのはYa.Su.Wa.Ro.の来年度以降の存続です。

「学生が手話を覚えることは特別支援教育のためにも有意義なことなので、新メンバーを加えて活動を続けてほしいです。私も何らかの形で協力していきたいです」と後輩たち

課外研究プロジェクトとは

大学院修士課程と学校教育学部の学生の自主的な研究活動に対して、その活動費の一部を支援する制度です。毎年5月に応募を締め切り、6月に選考。今年度は「Ya.Su.Wa.Ro.」を含む3件を採択しました。

<採択の基本方針>

修士論文や卒業研究に直接関係がなく、かつ大学の活性化につながり、主として、①大学と地域社会との連携の工夫改善に関するテーマ②大学の環境の工夫改善に関するテーマ③教員としての資質向上などの学生自らのキャリア形成に資するテーマの3つに関するもの



レイモンド^{けい こ}恵子さん
 大学院専門職学位課程
 小学校教員養成特別コース3年

ディスク1枚で 交友が広がるのが アルティメットの魅力



豊岡市の但馬ドームで毎年夏に開かれる「但馬アルティメット」に3年連続で参戦。メンバーは結成1年目【上】と比べ、現在(昨夏)は大きく増えました【左】

これに夢中!

皆さんはアルティメットというスポーツをご存じですか。フライングディスクを使う競技で、1チーム7人がパスをつないでエンドゾーン(得点ゾーン)をめざします。私は6年前に外国語指導助手(ALT)として来日していた友人に誘われたのがきっかけで始め、日本では珍しいスポーツだったことや、ディスク1枚あればどこでも楽しめる手軽さに魅かれました。

大学院1年生の時、十数人でチームを結成し、今では40人以上に増えました。練習や試合を通して外国人や社会人、学部生など幅広い人々と交流を深めています。

私の大学院生活はこれなしでは語れないと言っていていくらい、アルティメットはたくさんの方の友人と思いを一つにつけてくれました。これからも生涯スポーツとして続け、もっと多くの人たちとつながりを持ちたいです。

お気に入り スポット

いけだ しんたろう ^{かねまさ あゆむ}
池田慎太郎さん **金正安友武**さん
 大学院修士課程 自然系コース1年
 大学院修士課程 自然系コース1年



↑小高い場所にあり、西脇市街の夜景が望めます

木夢 (COMU)

西脇市高田井町にあるイタリアンレストラン&カフェです。赤い屋根が印象的なログハウスの建物は夜にライトアップされ、ロマンチックなムードが漂います。暖かくなれば屋外のテーブルで食事を楽しむのもお勧めです。メニューはどれもおいしいですが、特にパスタやピザは抜群。団体の貸し切りが入っている日や混雑する時間帯があるので、予約しておくのがベターです。



キム カンミン
金扛珉さん(韓国)
 学校教育学部総合学習系コース
 特別聴講学生

昨年3月から1年間、特別聴講学生として兵庫教育大学に通うことになりました。よさこい部「チーム鬼灯^{ほおずき}」に入部し、良き仲間と共にとくさんの思い出ができました。11月の学祭には、私もチームの一員として参加。2日間しんどいスケジュールでしたが、たくさんの方が応援してくれたり、一緒に踊ってくれたりして、とても楽しかったです。韓国に帰っても兵教大での思い出を大切に、機会があればまた来日したいです。



↑チーム鬼灯のメンバーたちと(2列目右から2人目が筆者)

留学生
 レッ
 メッセージ

⑥



うれの交差点

～兵庫教育大学と地域の交流ページ

KCVの
スタジオ
に潜入!

地元放送局の看板番組に
教員や留学生が出演中。
大学ならではの話題を
視聴者に届けています。



◀本番前、スタッフ
から収録の流れを
聞くバンゾさん。そ
の表情は硬いです



大学の多彩な魅力を 番組を通して発信します



◀山岡教授は正
面のカメラに映し出
される原稿を見なが
ら、落ち着いた口調
で語り掛けます

加 東市の放送局「加東ケーブルビジョン（KCV）」では地域密着の情報番組「KCV ワイドニュース」を毎日放送しています。この番組には、兵庫教育大学の教員による「放送大学」、留学生が母国の生活や文化を語る「私たちのふるさとを紹介します」の2つのコーナーがあります。

「どちらも15分程度のコーナーです。兵庫教育大学は視聴者にとって身近な存在であり、われわれには貴重なコンテンツです」と番組制作担当の進藤恭輔さん。「留学生のコーナーは3年前から。近年、留学生が地域のイベントに参加するようになったので、視聴者にそのことを知ってもらい、交流を深めるきっかけになればと企画しました」

両コーナーの収録日、最初にスタジオに現れたのは放送大学に出演する山岡俊比古教授（社会言語教育学系）。「授業でいつも話していますから、特別緊張はしませんよ」と笑みがこぼれます。自身の専門分野から放送用に選んだテーマは「ことばを身につけること」。幼い子が言葉を覚える過程において、周りの大人が注意すべきことを紹介します。「幅広い層の方が見られますから分かりやすい内容でなければ。特に小さなお子さんがあるご家族には参考になると思います」

簡単な打ち合わせの後、すぐさま本番へ。手元の原稿は頭上のカメラを介して正面のモニターに映し出されるので、山岡教授はカメラ視線のまま、はっきりとした口調で画面の向こうに語り掛けます。一度もカットがかかることなく、12分で収録は終了。教授が「予定通り。昨日、ストップウォッチ片手に練習しましたから」と言えば、進藤さんは「完璧でした。キーワードが出てきた場面にテロップを入れれば完成です」と返します。

NEWS

兵庫教育大学
教員と大学院生の
受賞のお知らせ

第1回東京国際歌曲作曲コンクール
第2位

草野次郎教授
体育・芸術教育学系



作曲した歌曲「うたうようにゆっくりと…」が応募46作品の中から、第2位に選ばれました(第1位は該当なし)。同コンクールは、国際芸術連盟が歌曲の領域とレパートリーを拡充し、優れた作品の普及振興を図る目的でスタートしました。草野教授の作品は昭和初期の詩人、立原道造の詩から作曲したもので、詩の持つ抒情性を美しい旋律で表現しました。

日本ストレスマネジメント学会第9回学術大会
奨励研究優秀賞

岡本典子さん

大学院修士課程学校心理学コース2年

岡本さんは、同学会で「『感情の筆記』が怒り感情に及ぼす影響の検討」という研究テーマでポスター発表を行いました。学校現場での暴力行為や学級崩壊などの背景には、怒りや感情の高ぶりをコントロールする能力の低さが影響していると考え、対象を客観的に整理するのに有効とされる言語を用いた感情の筆記に着目し、児童を対象とするプログラムを開発、実施しました。その結果、「怒りの制御」に効果が表れ、「ストレスの不機嫌・怒り反応」の軽減が認められました。

第7回「金融教育を考える」小論文コンクール
特賞

谷本千保さん

大学院専門職学位課程心の教育実践コース2年

同賞は、全国の教育関係者から寄せられた「金融経済教育に関する実践報告や研究結果、提言など」の中から最も優れた小論文に与えられます。谷本さんの論文テーマは「マネー・コンピテンシーの育成を目指した単元開発『コミュニケーション・メディア』としての貨幣から“つながり”をみつめる活動を通して」。小学校高学年を対象とした総合的な学習の時間の単元の提案で、お金という普遍的な課題を子どもの心にアプローチしていくための視点と実践プランを述べています。お金の持つ両面価値を学ばせることの重要性を示唆しており、お金そのものを取り上げた実践研究はこれまでにない新たな視点として評価されました。

今年度の兵庫教育大学関連番組

| | 放送日 | 放送内容 | 出演 |
|------|------------|---------------------------------------|-------------------------|
| 放送大学 | 4月5日~11日 | 絵画に見る「微笑」と「笑い顔」ルネサンスーバロック期絵画における表情描写ー | 喜多村明里 (体育・芸術教育学系准教授) |
| | 6月21日~27日 | イメージと投票行動の心理 | 天根哲治 (基礎教育学系准教授) |
| | 8月30日~9月5日 | 非行からの立ち直り | 遊間義一 (臨床・健康教育学系教授) |
| | 11月22日~28日 | ことばを身につけること | 山岡俊比古 (社会・言語教育学系教授) |
| | 1月17日~23日 | 不確実性の中の規則性 | 藤原司 (自然・生活教育学系准教授) |

| | 放送日 | 出演 |
|-----------------|-------------|---------------------------------|
| 紹介します 私たちのふるさとを | 7月19日~25日 | アシム・カーンさん(パキスタン・教員研修留学生) |
| | 9月27日~10月3日 | オルテガ・グスマン・バオラさん(メキシコ・教員研修留学生) |
| | 12月27日~31日 | ベルナルド・トゥバス・パンゾさん(フィリピン・教員研修留学生) |
| | 2月14日~20日 | 由恵子さん(中国・大学院修士課程学校心理学コース) |

おおむね隔月で「放送大学」と「私たちのふるさとを紹介します」を交互に放送しています。放送終了後でもリクエストをすれば視聴できます。

リクエスト方法

リクエスト番組で希望の番組名が掲載されていれば、電話で音声案内に従ってリクエスト番号を指定すると、リクエストチャンネルで放映が始まります。希望の番組が掲載されていない場合は、加東市地域情報センター(☎0795・42・8330)にお問い合わせください。

↓パンゾさんにキューを出す進藤さん



山岡教授と入れ替わるようにスタジオに入ってきたフィリピン人留学生、ベルナルド・トゥバス・パンゾさん(言語系コース研究生)は、緊張のあまり顔がこわばっていました。それもそのはず、パンゾさんは来日して1年、日本語を支障なく話せるようになったのはつい最近のことだとか。しかし、ティクを繰り返すうちに口調は落ち着いていき、母国のクリスマス過ぎの過ごし方や食文化などについて話しました。「まさか日本に来てテレビに出るなんて。びっくりしましたが、いい経験になりました」とホッとした表情を見せていました。

無事に収録を終えた進藤さんは「これからも兵庫教育大学とは良質の番組を作っていきたい」と語ります。大学としても地元放送局の番組に協力することとは地域貢献につながります。「加東市に住んで約30年、要請があればいつでも出演します」と山岡教授は前向きな姿勢を見せます。「でも、放送後に近所の方から『見ましたよ』と言われると少し恥ずかしいですね」

◎大学院学校教育研究科説明会

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)の教育課程や専攻・コースの概要などについて説明します。個別相談の時間も設けます。

加東キャンパス

◎日時 5月7日☎13:30~

神戸地区

◎日時 5月28日☎13:30~、6月18日☎13:30~

◎場所 神戸国際会館(神戸市中央区)

◎日時 7月9日☎13:30~

◎場所 神戸市総合教育センター(神戸市中央区)

京都地区

◎日時 5月21日☎13:30~

◎場所 メルパルク京都(京都市下京区)

東京地区

◎日時 5月14日☎13:30~、15日☎10:00~

◎場所 AP品川京急第2ビル(東京都港区)

福岡地区

◎日時 6月11日☎13:30~

◎場所 福岡朝日ビル(福岡市博多区)

☎☑ 入試課

☎ 0795-44-2067 ☎ 0795-44-2069

☑ office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp



◎大学院入学相談室

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)への入学希望者を対象に電話、ファクス、メールで相談を受け付けます。

◎開設期間 5月6日~7月11日(平日のみ)

☎☑ 企画課

☎ 0795-44-2359 ☎ 0795-44-2009

☑ office-kyoshoku@hyogo-u.ac.jp

◎教職大学院総合シンポジウム
スクールリーダー養成の総合プログラム
~教育専門職としての力量形成を~

教職大学院における豊かな学びを提供するため、これまで取り組んできたカリキュラムの改善内容について議論します。また、学校現場における実習の成果を報告し、今後の課題などについて検証します。入場無料。

第1部 シンポジウム

テーマ「教職大学院のカリキュラム改善に関する調査研究」

コーディネーター/加治佐哲也学長

第2部 講演会、連携協力校連絡協議会
講演会

テーマ「子どもの問題行動の理解とこれからの生徒指導の進め方」

講師/新井肇教授(心の教育実践コース長)

連携協力校連絡協議会

テーマ「連携協力校とともに養成するスクールリーダー」-「理論と実践の融合」現場実習の成果と課題-
パネリスト/教職大学院生、修学指導教員、連携協力校メンター

コーディネーター/米田豊教授(教育実践高度化専攻長)

◎日時 2月27日☎10:30~16:00

◎場所 神戸国際会館(神戸市中央区)

◎対象 教育委員会関係者、連携協力校関係者、学校関係者、教職大学院関係者、教員養成大学・学部関係者(教職員、学生)など

☎☑ 教職大学院研究・連携推進センター

☎ 0795-44-2311 ☎ 0795-44-2313

☑ office-res-collabo@hyogo-u.ac.jp

◎特別支援教育コーディネーター
コース開設5周年記念フォーラム
「特別支援教育の現在、そして未来へ」

講演「医療と教育の連携:ADHDスマートリートメントプログラム6年間の実践を通じて」

講師/山下裕史朗さん(久留米大学医学部准教授)

鼎談「特別支援教育コーディネーターの“専門性”について語る」

出演/柘植雅義さん(国立特別支援教育総合研究所 所長総括研究員)、橋本正巳さん(くらしき作陽大学子ども教育学部教授・兵庫教育大学大学院客員教授)、石橋由紀子(兵庫教育大学大学院講師)

報告「大学-地域連携の5年間と特別支援教育の地域展開」

シンポジウム「特別支援教育から考える通常学級の授業づくり方法論」

◎日時 2月26日☎10:00~16:30(開場9:30)

◎場所 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)(大阪市北区)

◎入場料 無料

☎☑ 研究支援課

☎ 0795-44-2418 ☎ 0795-44-2302

☑ office-kenkyu-t@hyogo-u.ac.jp

◎兵庫教育大学美術展

学部生や大学院生、附属幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒らによる合同作品展。卒業制作も展示。入場無料。最終日にはギャラリートークも。

◎日時 3月2日☎~6日☎10:00~18:00(最終日は15:00まで)

◎場所 兵庫県立美術館原田の森ギャラリー(神戸市灘区)

☎ 芸術系コース美術分野(初田)

☎☎ 0795-44-2252

☑ hatsuda@hyogo-u.ac.jp

◎吹奏楽部第27回定期演奏会

吹奏楽部が日頃の練習の成果を披露します。ゲストに国内外で活躍しているトロンボーン奏者、中川英二郎さんをお迎えします。

◎日時 3月6日☎13:30~

◎場所 加古川市民会館大ホール

◎入場料 800円、中高生600円(小学生以下無料)

☎ 学生支援課

☎ 0795-44-2050 ☎ 0795-44-2049

◎公開講座の受講生募集

「マネジメント入門-ドロッカーから学ぶ仕事、学校生活、日常生活の知恵-」

◎日時 5月28日☎13:30~16:30

◎場所 神戸サテライト(神戸市中央区)

◎対象 一般、現職教員

◎定員 30人(申し込みが5人以下の場合は開講しません)

◎受講料 無料

◎募集期間 4月1日~5月16日

「イタリアの歌曲と民謡を歌いませんか?」

◎日時 6月4日~7月2日の土曜(全5回)14:00~16:00

◎場所 加東キャンパス

◎対象 一般(成人)

◎定員 15人(申し込みが5人以下の場合は開講しません)

◎受講料 6,500円

◎募集期間 4月1日~5月19日

☎☑ 地域交流推進センター

☎ 0795-44-2053 ☎ 0795-44-2320

編 集 後 記

●リアルな肉感とボディの存在感、みなぎるパワー、青年の苦悩…。今号の表紙、日展入選作をとくご鑑賞ください。さて、「巻頭言」や「教育最前線」にもあるように、本学教職大学院はこの3月で完成年度を迎えます。これまでの実績を客観的に評価し、さらなる発展に向けて再スタートを切ります。修士課程の教育研究組織も4月から新編成でスタートします。より充実した教育と研究を進めるための改革です。学部生の教育にも力が入ります。「教育子午線」も2年に1度、誌面デザインやコーナーをリニューアルしています。現在、読者アンケートの集計結果などを参考に検討中。次号(6月発行予定)では新しい姿で皆さまのお手元に。ご期待ください。(あ) ※バックナンバーは兵庫教育大学ホームページでご覧ください。

◎あなたの声をお聞かせください

「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりをめざしています。

はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方には、オリジナル・シャープペンシルを進呈します。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1 兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務局

☎ 0795-44-2334 ☎ 0795-44-2009

☑ office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

